

令和 7 年度 東京都立東村山高等学校 学校経営報告

校長 内海 秀一

自己評価の基準： 【A】 十分達成できた 【B】 おおむね達成できた
 【C】 あまり達成できなかった 【D】 まったく達成できなかった

1 中期的目標と方策	令和 7 年度の取組と自己評価	
<p>【目標】 エンカレッジスクールとしてスタートして、今年度は 16 年目となり、令和 9 年には、東村山高校創立 60 周年を迎える。 「他者（ひと）のために、一步先の自分へ」をスローガンの下、分かりやすい授業の実践、エンカレッジスクールの特色を生かした教育活動、補習・講習等の充実で生徒の満足度を高め、将来、社会の変化に主体的に対応でき、社会貢献できる生徒を育成する。</p>	<p>進学応援型エンカレッジスクールとして、中学校まで力を発揮しきれずにいた生徒が、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的な学力を身に付けることを目的として、1 学年で「30 分授業」や「二人担任制」、「15 種類から選べる体験学習」等、生徒一人一人へのきめ細かな対応の他、全学年で「習熟度別・少人数学習」や「朝学習・朝読書」、「進路ガイダンス」等、キャリア教育の充実を図ることに取り組んだ。</p>	
【方策 1】進学応援型エンカレッジスクールとしての指導体制の確立と教育課程の構築		
①学び直しの充実	①「学び直し」に向けて、生徒の実情・実態把握に努め、「30 分授業」等において、指導内容の精選を行い基礎学力の向上を図った。	自己評価 B
②カリキュラム・マネジメント体制を確立	②2 年生の探究学習において、「防災」をテーマとして 1 年、2 年と 2 年間に渡って系統的・計画的に取り組んだ。	
③補習・講習等の校内体制の充実及び発展的学習の提供の充実	③夏季休業期間中の講習講座の調整と周知を行い、習熟に応じた講座への参加を促した。	
④授業力向上や個に応じた教育支援等の課題解決のための校内研修の充実及び人材育成	④「UD（ユニバーサルデザイン）」や「探究」を意識した授業を目指して、校内研修会においても、このテーマを取り上げ、全員がいずれかを意識して取り組む態勢を整えた。	
⑤外部人材を活用した基礎学力の向上	⑤基礎・基本学習個別指導員を数学と英語の授業において活用し、特に下位層の生徒に対してきめ細かな指導を行った。また、放課後の校内寺子屋事業において、数学及び英語の基礎学力向上に向けて、事業の活用を図った。	
【方策 2】3 年間を見通したキャリア教育の充実		
①進路に対する明確な目的意識をもたせるため、第 2・3 学年に特別進学クラスを 1 クラスを編成	①昨年度より、2 年生から進学希望者を対象とした「特別進学クラス」を編成。新編成の特進クラス卒業生の満足度は高く、成績の伸びにも成果が見られた。	
②計画的な高大連携・高大接続を目指した進路指導の充実	②3 年生に加え 2 年生が、夏季休業中にオープンキャンパスに参加した。	
③進路行事等を活用した進路選択する力の育成の充実	③年間 29 回のガイダンスや講演会を実施。大学、短大、専門学校別のガイダンス等では、上級学校を知り、高校時代に何をしておかなければならないのかを知る機会になった。	

【方策3】主体性、協調性、責任ある態度を身に付けさせる教育の推進	
①学校生活の心得を確実に身に付けさせ、地域との連携を深めた教育活動とともに奉仕活動等、社会貢献活動の充実	①歳末助け合い運動や東村山市産業まつりに生徒会の生徒が中心にボランティアとして参加し地域貢献活動を行った。
②多彩な学校行事の推進と対外活動への支援	②6月の体育祭では熱中症に留意し、安全に実施。9月の文化祭では1000名以上の在校生の保護者、学校見学を兼ねた中学生の生徒保護者が来校
③ホームルーム、生徒会活動、体育祭、文化祭を通して、役割と責任ある集団づくりの推進	③生徒の主体性を促し体育祭・文化祭等を実施
④自転車乗車マナー向上・交通ルール遵守を通じて事故ゼロを目指す。	④7月に東村山警察協力のもと「セーフティ教室」と「交通安全教室」を実施
【方策4】心と体の健康づくりの推進	
①部・同好会の活性化及び体力向上と帰属意識の高揚を図る。	①グラウンド使用の部活動においては、これまで以上に充実した活動へとなっている。
②継続的な体力向上に向けての取り組みの遂行	②ロードレース大会では、大会に向けて体育の授業で持久走が行われ、練習を積み重ねた成果が表れた大会となった。
③「教育相談の充実」を目指し、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー、学校医、関係機関等との連携を図り、中途退学防止を図る。	③SC・YSWを交えた教育相談委員会を毎月開催。また、各学年の教育相談担当も参加することで情報の共有を図った。
④特別な支援を必要とする生徒へ配慮した基礎的環境整備の充実	④コミュニケーション・アシスト講座への生徒の参加及び通級指導の校内規定が整った。
【方策5】組織的な学校経営と経営企画室の学校経営参画の促進	
①全教職員の協働体制の構築及び企画・立案を積極的に行い、所属職員の意識向上を図る。	①年度当初の組織目標設定、学期毎の取り組み及び課題の整理を全分掌・学年・教科で行い、進捗状況を把握することができた。
②企画調整会議を軸とした学校経営・全教職員の協働体制の構築	②企画調整会議を毎週実施
③学校運営連絡協議会による学校関係者評価に基づいた、学校経営の改善	③学校評価アンケートの教職員の回答者は昨年度に引き続き100%であった。
④予算編成と施設・設備の整備の充実	④執行計画に基づいた適切な執行管理を行った。
⑤「働き方改革」を推進し、育児中の職員のキャリア形成の促進と介護・仕事の両立支援を図る。	⑤「子育て」「介護」等について理解と相互支援のある環境となった。
⑥本校の特色をPRするための広報活動の充実	⑥学校案内パンフレットに加え、ポスターと説明会に関するチラシを作成

2 本年度の教育活動の取組内容	自己評価
<p>「Change」（変化する） 「Communication」（伝える） 「Challenge」（挑戦する） の3つのキーワードを意識した教育活動を行い、「他者（ひと）のために、一歩先の自分へ」の実現に迫る。</p> <p>目標1 「力を付ける授業」で生徒を伸ばす 目標2 「基本的生活習慣の確立」と「心身の健康づくり」を強化し、生徒を支える 目標3 「本校の魅力発信」で、選ばれる東村山高等学校を創る</p> <p>重点事項1 授業の充実 2 心身の健康に関する意識を向上・教育相談の充実 3 応募者数の確実な確保</p>	

(1) 教育課程・学習指導		
<p>①チャイム始業の徹底と基礎・基本の定着</p> <p>ア 「UD (ユニバーサルデザイン)」、「探究」を意識した指導</p> <p>イ 学力向上研究校 (校内寺子屋事業) による主体的に学習する態度の育成</p>	<p>①今年度は、授業開始時の身だしなみの確認を実施し、生徒が学習に意識を向けられるようにした。また、『UD』を意識した授業を実施し、生徒の学ぶ意欲や基礎学力の向上に取り組んだ。</p> <p>ア 「UD」に基づいた指導方法や通級でのコミュニケーションに関する指導について研修を進めた</p> <p>イ 放課後学習に関して、校内寺子屋事業を活用し、数学・英語の基礎学力向上を図った。</p>	自己 評価 B
<p>②希望する進路を実現するために必要な学力の育成及び学習習慣の定着</p> <p>ア 特別進学クラスの特色化の推進</p> <p>イ 面接・小論文指導の充実</p>	<p>ア 2年生からの「特別進学クラス」編制3年目となった。特進クラスの生徒の成績の向上が顕著であるとともに、普通の授業における取り組みが良好で、クラス全員が「学びに向かう」体制となった。</p> <p>イ 指定校受験者に対する面接指導を全教職員の協力で実施。一方で総合型選抜の受験者に対する小論文指導は、進路先決定が遅いため、充分でない状況があった。</p>	
<p>③学習習慣の定着</p> <p>ア 朝学習・朝読書の推進</p> <p>イ 家庭学習時間の確保</p>	<p>ア 朝学習PTを立ち上げ、自学自習できる仕組みづくりについて検討を進めた。A帯の授業に落ち着いて取り組む姿勢が見られた。</p> <p>イ 定期考査前などタイミングよく各授業担当からTeamsを利用して課題の配信を行った。</p>	
<p>④一人1台端末の活用</p> <p>ア Teams活用やBYOD、CYOD導入に対応した学習指導の推進</p>	<p>ア デジタルサポーターの支援など受けながら、「Teams」による連絡事項の配信等、効果的に活用する教科が増えた。また、スキルアップ推進校の事業を活用し、2学年全員がデジタルスキル講座(パワーポイント)を受講した。</p>	
<p>⑤観点別評価(3観点)の実施</p> <p>ア 指導と評価の一体化を図る</p> <p>イ 全学年における3観点評価実施</p>	<p>ア 3観点での評価は、各教科及び学校全体で共通理解を図った。</p> <p>イ 各教科と各学年教務担当が連携して観点別評価の定着を図った。</p>	
<p>⑥エンカレッジスクールにおける教育課程編成の検討</p>	<p>⑥第3学年の選択授業について検討した。</p>	
(2) 進路指導・生活指導		
<p>①挨拶・「私語のない授業」・身だしなみ指導・「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いを尊重する心の育成</p>	<p>①服装、頭髪、化粧等、身だしなみについて、朝の立ち番等で指導を継続して行うと共に、生徒会が朝の挨拶運動を実施。また、生徒総会にて制服について提案があり、検討の結果ポロシャツを導入した。</p>	自己 評価 B
<p>②問題行動・転退学者の減少と進学率の増加</p> <p>ア 生徒の「心の悩み」に対応するため、相談体制の充実</p> <p>イ 薬物乱用防止指導、交通安全指導等のセーフティ教室等の計画的・系統的実施及び関連機関との連携</p>	<p>ア 教育相談委員会を中心に、相談体制の充実を図った。</p> <p>イ 7月に東村山警察協力のもと「セーフティ教室」と「交通安全教室」を行った。</p>	

<p>③「進学応援型」の充実及び最後まで諦めさせない粘り強い進路指導の充実</p> <p>ア 計画的なキャリア教育の推進</p> <p>イ 放課後や長期休業期間中の補習・講習の充実</p> <p>ウ 進路指導部と学年等が連携し、生徒に的確な進路情報を提供</p> <p>エ 生徒の進路希望に応じ、面接指導や論文指導等生徒の進路希望達成に向けた組織的・計画的な指導</p>	<p>③進路指導部・教科・学年が一体となり、一年間を通して進路に関して支援した。</p> <p>ア 各学年の「総合的な探究の時間」や進路行事を進路指導部がサポートし、キャリア教育を推進した。</p> <p>イ 夏季休業期間中に講習等（学び直しと進路対策）を実施。</p> <p>ウ 進路調査をもとに進路指導部が学年と協力して生徒の進路決定に導いた。</p> <p>エ 全職員の協力で面接指導を実施。総合型選抜の受験者に対する小論文指導は、進路先を決定するのが遅いため、指導に課題が残った。</p>	
<p>④部活動の活性化</p> <p>ア 継続的な体力向上に向けての取組を遂行する。</p>	<p>④ビームライフル部、演劇部は関東大会出場、バドミントン部は地域の大会で優勝多数</p> <p>ア 部活動推進計画に従い、適切な休養日を設け、効率的に練習を実施する中でも大会等において好成績を残している。</p>	
<p>⑤SC、YSW、学校医、関係機関等との連携とケース会議の充実</p> <p>ア 教育力向上を図るため、自立支援チームと通級学級コアチームとの連携及び活用の充実</p> <p>イ 中学校からの生徒情報共有シート等の活用と合理的配慮に基づいた指導の充実</p>	<p>⑤SC、YSW、自立支援担当、特別支援コーディネーター、養護教諭等との連携を図るとともに、月1回の教育相談委員会には学年の教育相談担当も参加し、個々の生徒の情報について共通理解を図り対応することができた。そのため、ケース会議も活発に行われた。</p> <p>ア コミュニケーションアシスト講座への参加を継続している。今年度から通級指導を開始した。</p> <p>イ 入学前に中学校から生徒情報を収集し、年度当初に全校で共有することができた。</p>	
<p>(3) 募集対策</p>		
<p>①外部人材を活用した実践的なスキル習得</p>	<p>①スキルアップ推進事業を活用し、グローバルスキル講座では、放課後に外部人材を活用して英検受験対策を級ごとに実施した。</p>	<p>自己評価 B</p>
<p>②学校の取組みに関する積極的な情報発信</p>	<p>②地域に信頼されることを目的に取り組んだ。ホームページは300回以上の更新を行った。</p>	
<p>③中学生や保護者の視点での学校説明会、学校見学会、体験入学等の実施</p>	<p>③学校説明会では、今年度から教職員からの説明に加え、生徒会役員からの説明及び学校案内も行った。</p>	
<p>④中学校の教員、塾対象に本校（エンカレッジスクール）の特色について発信</p>	<p>④夏季休業期間中に中学校、塾訪問を実施。また、近隣小学校2校のサマースクールに本校生徒が参加して学習支援に協力した。</p>	
<p>⑤地域と連携したイベントの展開</p>	<p>⑤施設開放事業で、テニスコートの開放を実施。また、公開講座で、オカリナ作成を実施し、受講生から好評を得た。</p>	
<p>(4) 組織体制の強化と働き方改革</p>		
<p>①PDCAサイクルに基づいた学校経営</p>	<p>①学期ごとに目標に向けた取組状況を確認し、課題の整理に務めた。</p>	<p>自己評価 B</p>
<p>②経営企画室と一体化した学校経営を目指し、経営企画室のさらなる経営参画の促進</p>	<p>②経営企画室打合せ、4者打合せを毎朝実施し、情報共有により速やかな課題対応に務めた。</p>	
<p>③点検・環境整備・研修等を通して個人情報・情報セキュリティの適正管理を図る。</p>	<p>③定期的な服務研修及び機会を捉えての周知により適正管理に務めた。</p>	
<p>④生徒・保護者・その他都民に対する親切かつ丁寧な</p>	<p>④電話対応等、丁寧な対応に務めた。</p>	

接遇の実施	
⑤教員との緊密な連携による効果的かつ正確な事務を遂行し、募集対策・入学者選抜の運営及び支援を行う。	⑤選考委員会（教員系・行政系）を中心に入学選抜業務に取り組んだ。また、募集対策では、夏季休業中から平日学校見学会を実施するとともに、部活動体験を行った。
⑥育児休暇取得経験者等を講師とする子育て研修会をはじめとして、働き方改革研修会を開催	⑥男性育児休業取得者が複数名いるなど、ライフワークバランスの推進に務めた。

3 数値目標				
項目	内容	目標値	今年度	達成度
1 学習指導	(1) 授業研究（一人1回）、相互の授業参観（一人3回以上）	100%	100%	A
	(2) 生徒による授業評価（年2回以上実施）	年2回	2回	A
	(3) 校内寺子屋出席率（基礎学力の定着）	100%	30%	C
	(4) 一人1台端末活用に向けた校内研修等	年3回	3回	A
	(5) 観点別評価に関する研修会等	年3回	1回	C
	(6) 長期休業中の補習・補講の実施	40 講座以上	23 講座	C
	(7) 図書貸出冊数（図書館利用活性化）	3000 冊以上	2106 冊	C
	(8) 漢字検定・英語検定（3級以上）	30 名以上	189 名	A
2 進路指導・生活指導	(1) 進路実現に向けたガイダンスや講演会	30 回以上	26 回	B
	(2) 進路決定率	90%以上	85.2%	B
	(3) 基本的生活習慣の確立 ① 声を出して挨拶 ② 中途退学者・転学者数合計	100% 各学年5名以内(全校15名以内)	33% 24名	C
	③ 年間のべ遅刻者数 ④ 特別指導件数	4000名以内 20件以下	8233名 12件	
	(4) 始業式・終業式で校歌斉唱	毎回	100%	A
3 心と体の健康	(1) 部活動の推進	関東大会・全国大会への出場	関東大会出場	B
	(2) SC・YSW との打合せ	月1回	月1回	A
4 募集対策	(1) 外部人材を活用した実践的なスキル習得 ①グローバルスキル講座 ②デジタルスキル講座 ③職場体験講座	50人以上 200人以上 200人以上	30人 2学年全 1学年全	B
	(2) ホームページ更新	200回以上	318回	
	(3) 若鳩だより	5号以上	5号	A
	(4) 入選倍率	中進対1.4倍 推薦 3.5倍 第一次1.5倍	1.02倍 2.88倍 0.98倍	B
	5 組織体制	(1) PDCA サイクルによる学校運営の見直し	年3回	年3回
(2) 月当たり時間外勤務 45 時間を超える教員		0（ゼロ）人	186人	C
(3) 年休5日以上取得		全教職員	96.4%	A
(4) 一般需用費センター執行割合		60%以上	40.5%	B

4 次年度以降の課題	対応策
①探究的な学習については、音楽などの体験的な活動を通して課題解決しようとする生徒の姿を引き出すことができた。UDを意識した授業を目指し、教員が研鑽に努め、時間の構造化・発問の工夫・資料の工夫など授業改善を図った。	①UDについては、来年度も定期的に研修会を実施していく。
②身だしなみ指導や遅刻指導等、生活習慣を身に付けさせる指導の在り方については、生活指導PTの検討内容を全教員が共通理解し実践していく。	②身だしなみ指導や遅刻指導など、生活習慣を身に付けさせる指導を継続していく。そのため、指導の在り方について全教員で共通理解を図っていくことや教育課程の見直しを検討していく。
③通級指導について、生徒の様子を全教職員で共有し、理解を深めた。都立版エリアネットワークの研修会を本校で実施した。	③学校生活支援シートやカードを生徒に関わる教職員が把握し、適切な支援ができるようにする。
④基礎基本学習支援事業、スキルアップ推進事業等の指定校推進事業を活用し、生徒の伸長を図り、また本校の魅力発信につなげた。また、久米川東小学校、久米川小学校の夏の補習教室補助や東村山市民産業まつり等に意欲的に参加することで、戦略的な募集対策を推進した。募集対策については、一層の工夫を要する。	④本校の魅力、生徒の活躍の様子については勿論、中学生・保護者・中学校教員、そして地域の方にエンカレッジスクールの特徴について理解を深めていただくとともに、ミスマッチのない学校選択となる学校紹介の更なる工夫をしていく。